

製本のススメ

Vol. 83

災いの多い一年が終わり、カレンダーを掛け変えるように、新しい気持ちで一年をスタートです。一年の計は元旦にあり！健やかな年にいたしましょう。

新年だからこそ！の話し

リーマンショック以来 不景気と災害の話しかない中で、頑張ろう！と言っていても口先だけではどうにもならず、味自慢の店がファミリーレストランになり、商店にはコンビニがオープンする。技術も流通も大資本の革新が進みます。それは、それで良いのですが専門性が薄れて何処でも同じ味になったような気がします。

印刷業界でも便利な道具ができ、ベテランのノウハウは、搭載されたソフトウェアに代わり、素人ですら、そこそこ見栄えの良い印刷ができて、アマとプロの境目が薄れ平均化が加速したのではないのでしょうか。底辺レベルが上がるのは良いですが、上辺レベルが下がるのは問題です。ボタンを押せば確かに用紙へインクが乗るでしょうがそれでは印刷したと言えません。つまり刷るだけでは駄目なのです。直角の出ていない用紙・見当が合わない刷り本・紙伸び分を見込まない見開き面付け・乾かないインク・逆目など【痛んだトマトでは美味しいナポリタンは作れません】プロを見る目が肥えてきた昨今『この程度の仕上りなら頼まないよ』という事になります。

さて製本会社は印刷後の加工を担当しますが、最近「やる気のでる刷り本」を残念ながらあまり見かけません。必ずどうやって補正しようかと考えます。プリプレスの機械は便利になりましたが、製本機械は基本に忠実で、曲がった紙は曲がって折れます。その為に、まず紙を揃え直し断裁をするなど、余分な時間をとられています。また紙目の不具合・中綴じの小口文字切れ、その他あらゆる不具合に可能な限り対応とフィードバックをしていますが、改善の兆しはありません。

印刷の顧客も様々で、コスト優先・納期優先・品質優先と顧客によって優先順位が様々ですが、いづれにしても、他社と差別化し優位に立つためには、プロの知識と技が無くては勝てません。営業は客先への強力なアピールでしょうし、現場では営業を支える技術力、そして作業に関わる全ての人に紙と印刷加工の基礎知識でしょう。それが無くては素人同然です。用紙の選択を誤ったばかりに、製本できない事もよくある話【痛んだトマト】の刷り本とならないように、製本のススメも作成してまいります。

製本について不明な点があれば、お気軽にお尋ねください。



Tea break

そんなこと分かっていますよ！と思いながら読んだ方もいるでしょう、でもやらなきゃ 知らないのと同じってことで、今年は一歩前へ♪どうですか!(^^)!

by (株) 井関製本